

平成29年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告  
「やってみよう！環境学習プログラム」第5回「昔の暮らしから学ぶ」（テーマ：生活）

- 実施日時 平成29年8月21日（月） 10時00分～16時15分  
□受講者数 9名（教員7名、研修・聴講者2名）  
□実施場所 八王子滝山里山保全地域、梅坪会館  
□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・体験

（ゲストティーチャー：NPO法人自然環境アカデミー専務理事 野村亮氏）

・里山を取り巻く生活環境

里山とはどのようなところか、里山と人とのつながりや、里山を生活にどのように活用してきたかを学び、生物多様性や無駄のない生活を考えるきっかけとする。



(1) 竹の間伐体験





(2) 竹を使った工作体験



## 【午後】

### 3. 環境学習プログラム「昔の暮らしから学ぶ」の紹介及び実習

(講師:NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

#### (1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気付き、学んで成長する。しかし、現代の子供たちは、遊びや地域との関わりが希薄であり、様々なことを体験的に学ぶ機会が少なくなっている。このため、学校教育の場で体験に基づき子供の感性を伸ばすことが、昔と比べ非常に重要。
- ・環境学習もその一環であり、「自然は人間やすべての生き物のいのちの源である」ことを、実際の体験や気付きを通じて、子供の心の中に落とし込むことが大切。

#### (2) 「昔の暮らしから学ぶ」プログラム紹介と体験

昔と現在の道具や暮らし方の違いを比べることによって、子供たちの感性を磨き、「もったいない」や「道具の使い方」を工夫することによって安全でより環境に優しい生活を考える力を育てるプログラム。

- ・昔と今の生活用品の比較、昔と今のまちづくりの比較 (エコ・タイムマシーン)
- ・里山新聞の作成 など

### (桜の枝を使ったエンピツストラップ作り体験)



### (3) まとめ(質疑応答及び受講者同士の情報交換)

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。

#### (発表意見の例)

- ・里山の管理、生活の工夫などを知ることができた。ぜひ、子どもたちにも伝えていきたい。
- ・竹を切る、小刀を使うのは、自分自身も初めての体験だった。これまでの授業では写真での比較がどうしても多くなってしまっていたが、なるべく実際に見せるような体験を増やしていきたいと思った。
- ・里山にはすぐには連れて来られないが、身近なところで、誰でもできるような内容を工夫していきたい。
- ・自然の中にいることで、エネルギーをもらった。子どもたちは何も言わなくても発見できるが、今日講師からあったような一言を添えられると、新しい発見があり、子どもたちも少し物知りになった気分を味わえるのではないかと思う。こうした引き出しを増やしていけるといいと感じた。



#### 4. 事務連絡、アンケート記入等(事務局)

アンケート提出後、解散